2023.2.11　茨城新聞

日銀の視点

金融教育で夢を後押し

日銀水戸事務所長　上野　淳

昨年12月の本コラムでは、当事務所が事務局を務める県金融広報委員会（県金広委）が委嘱した「金融・金銭教育研究校」のうち、小・中学校の研究発表会について紹介した。その後、12月中旬には、県立古河一高でも発表会が開催された。

同校では「自立した生活者を育てる金融教育」をテーマに金融教育に取り組んできた。発表会当日の公開授業では、普通科1年生の家庭科で、これから社会人になる4人の人生設計例を題材に、生徒が人生にかかる費用をシミュレーションした上で、グループごとに問題点や解決策を話し合う授業が披露されていた。また、商業科の会計ビジネス科（3年生）では企業の財務諸表分析、情報ビジネス科（同）では表計算ソフトの関数機能という、それぞれの科ならではの専門的なスキルも活用しながら金融を学ぶ授業が紹介されており、興味深く拝見した。

公開授業後には、参加した教育関係者間で活発な議論が行われた。その中で県教育庁の方から家庭科の公開授業について、シミュレーションでお金が不足することとなっても諦めて終わるのではなく、改善策（備える、貯める、増やす）までしっかりと取り上げられていた点や、ニーズ（必要なもの）とウォンツ（欲しいもの）を区別して自分への投資であるニーズには支出するなど、将来を見通すことの重要性に触れられていた点などを評価するコメントがあった。金融教育において極めて重要なことであり、大いに共感した。すなわち、金融教育を受けた生徒が「将来お金が足りなくなるから、夢も諦めよう」と縮小均衡に陥ってはトするもの（そのための知識や判断力を身に付けさせるもの）でなければならないと強く思う。こうした議論を含め、素晴らしい研究発表会であった。同校をはじめ関係者の方々にお礼を申し上げるとともに、成果が参加者などを通じて今後の教育に生かされることを期待したい。

本末転倒であり、金融教育は夢の実現をお金の面からサポー

最後に、県金広委のごく最近の活動を簡単に紹介する。2月5日に水戸市で、タレントの杉村太蔵氏を講師としてお招きし、一般の方々向けに老後の資産形成に関するセミナーを開催、多くの方にご来場いただいた。「自分の頭で分からないものには投資しない」など大切なことを、楽しく、分かりやすくお話いただき、90分があっという間に感じられた。来年度も皆さまのお役に立てるセミナーを企画していきたい。

（次回は3月11日掲載）